

[担当教員]

末木伸吾（教授）中江研（教授）浅井保（助教）

[Teaching Assistant]

加藤亜海（A69）篠山航大（A69）山地雄統（A69）

■課題概要

大学内での活動としての講義や演習・実習とは別に、ある一定の期間、空間を共にし、集中した活動や共通の目的をもって活動する場が求められている。この課題は、近畿圏の大学共通施設として位置づけ、セミナーや共同制作、スタジオ、社会との連携など学内では難しい様々な活動に対して自由で豊かな場を提供することを目的としている。

■計画敷地

計画敷地は、神戸市灘区の山麓市街地に位置する灘丸山公園の土地を想定する。現在の公園用地の全部または一部をセミナーハウス用地として使い、敷地へのアプローチも南側の道路をそのまま利用するものとする。独自のアプローチを計画する場合は教員から指導をうけること。

■建築概要

建築施設の延べ面積は4,000m²程度とし、階数、構造は自由とする。

■利用者

施設の利用者は主として大学生、大学院生、大学教員であり、15人単位（10人～20人）が6組宿泊でき、最大で150人の学生が共同で研修できる施設とする。また、指導教員や外来者が別に15人宿泊できる諸室を確保すること。

■提出図面

A1の用紙にコンパクトにまとめること。

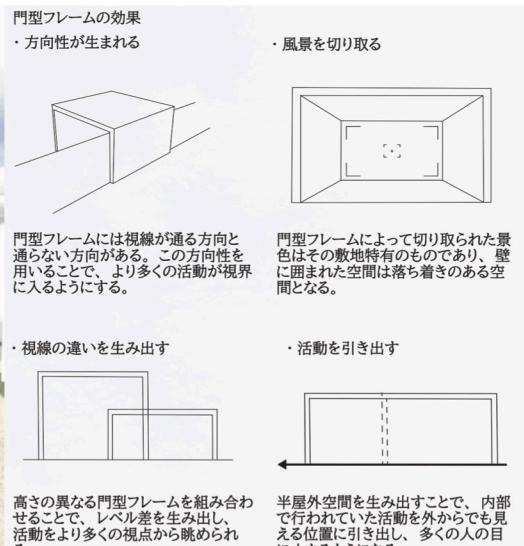
- ・全体配置図：scale 1/500
- ・各階平面図、立面図、断面図：scale 1/200
- ・透視図または模型写真



出会いの門

梶山彩花

現在、大学の活動は外部の人々には見えにくい。このセミナーハウスでは、その問題を解決していく。そこで敷地に大きな道を配置し、門型フレームを用いて大学生の活動を道側に引き出し、道を通るだけで自然と活動が見え、交流が生まれるような空間を提案する。



*ベースの添景に一部 Skalgubbar (www.skalgubbar.se) のものを使用

めぐる輪

松森梨佳子

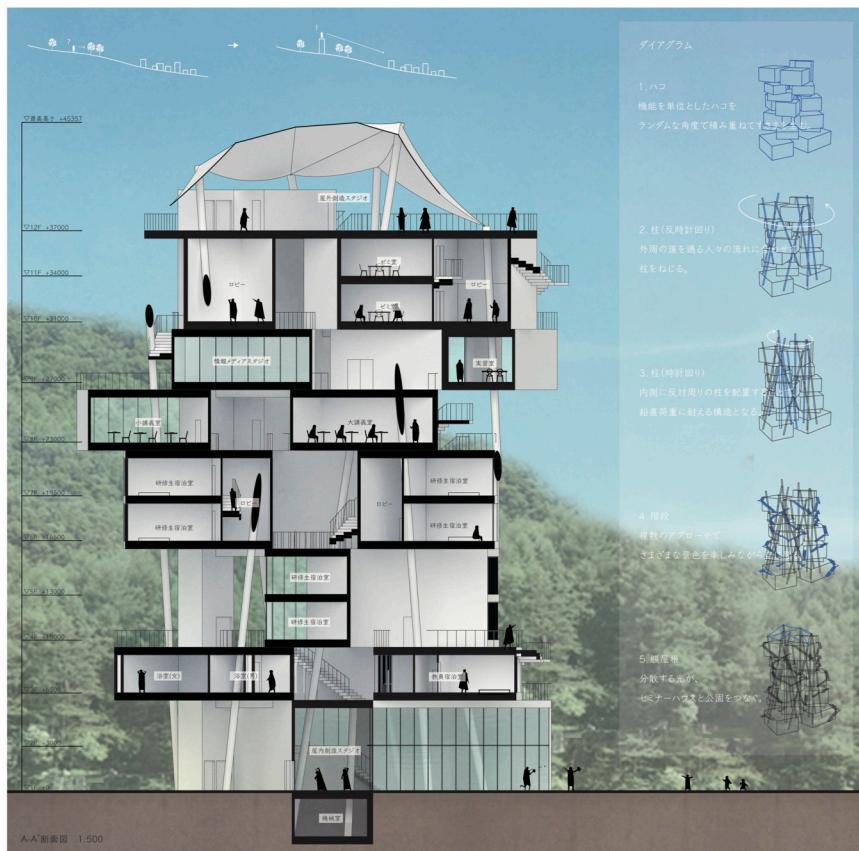
六甲山から市街地へと続く立地を踏まえ敷地に沿ってレベル差を設けたことにより、自然と一体化した地形のような建築とした。また、「学ぶ」「宿泊する」「地域交流」という3つの空間で輪を構成することで利用者が建築全体を“めぐり”、セミナーハウスでの生活サイクルを作り出す。



空に登る

武波彩代

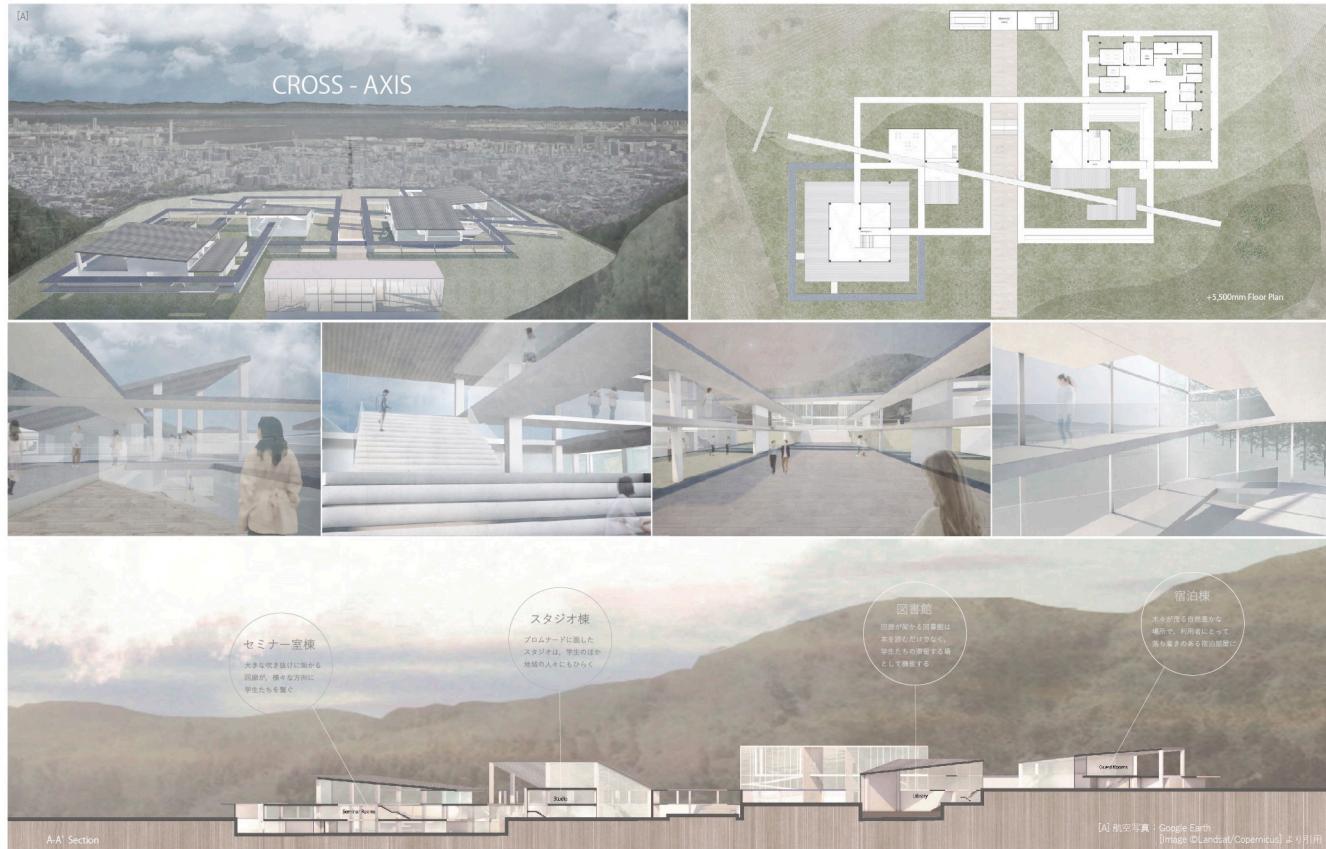
まちから離れ木々に囲まれた灘丸山公園に、研修生にとってルーツ(roots)となるセミナーハウスが根(root)を張るように立ち上がる。思わず見上げた空は、ふだん都市のすき間から見る空よりも広くて近い。「もっと近づいてみたい。」空に登った先で、地上からは見えなかったまちの姿に気づく。



CROSS — AXIS

宮本莉奈

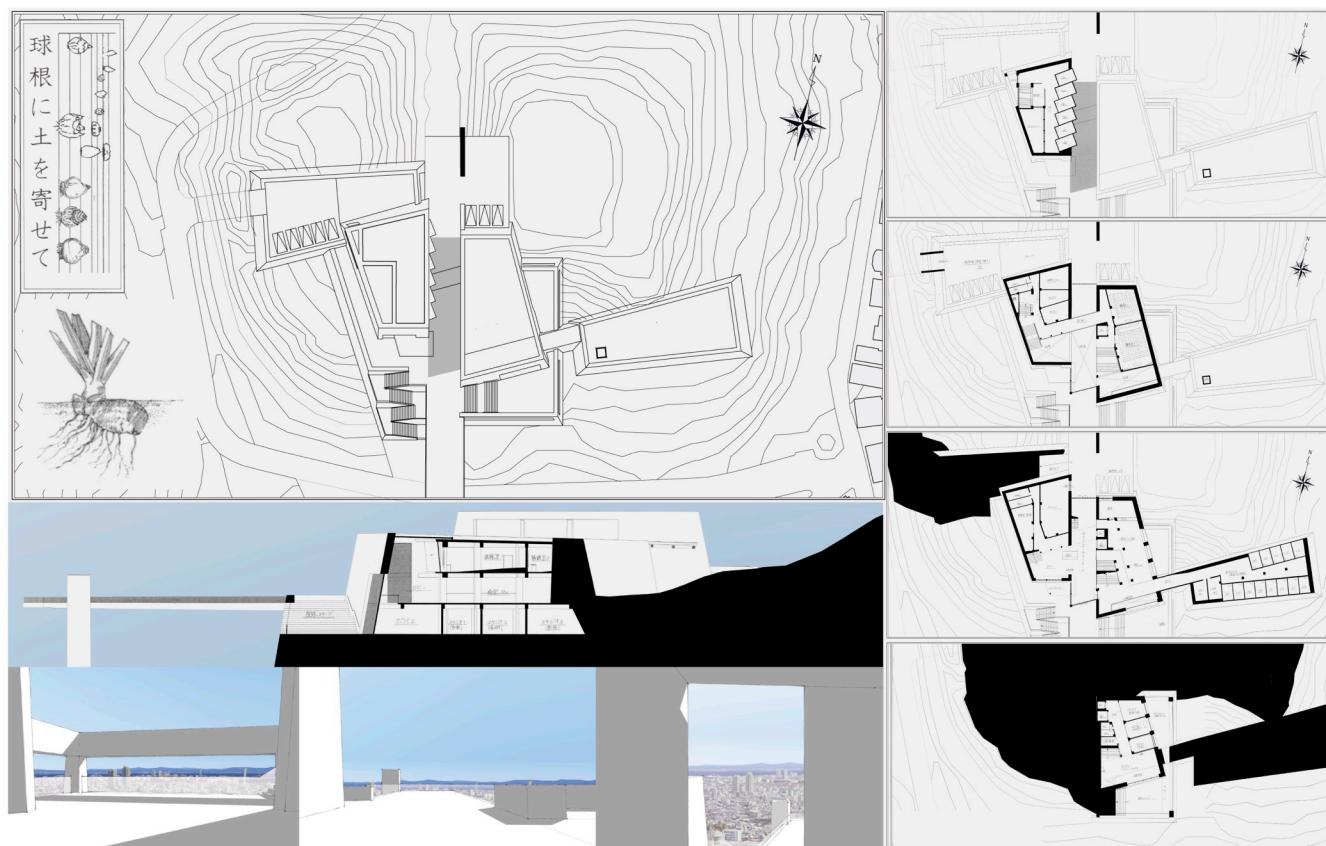
「回廊」によって領域を結ぶことで、ただ機能を繋ぐだけでは生まれない、偶然の出会いのきっかけをもたらし、ここで生まれる様々な活動をより豊かなものにする。灘のまちから伸びた軸線を用いた計画は、このセミナーハウスを、大学生やまちの人々を包み込む象徴的な存在にする。



球根に土を寄せて

長央尚真

学生が集い、成長する姿は活気に溢れる。彼らが籠るその建築には濃密なエネルギーが蓄えられており、冬の間、春の開花を夢見て養分を溜め込む球根のようにも見える。敷地は土採り場として採掘された過去を持つ。学生たちの活気を包み込むハコを球根に見立てて、土を失った地に土を寄せる。



*ベースの背景の風景写真は <https://kobe-rokko.jp/> (最終閲覧 2022.2.27) より引用